

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4072100284		
法人名	株式会社 山田桜の郷		
事業所名	やまだ桜の郷		
所在地 (電話番号)	〒821-0011 嘉麻市下山田715-1 (電話) 0948-53-1278		
評価機関名	財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成20年11月26日	評価確定日	平成21年1月21日

【情報提供票より】(H20年11月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年11月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 15人, 非常勤 0人, 常勤換算 7.5人	

(2) 建物概要

建物形態	併設 / 単独		新築 / 改築	
建物構造	木造瓦葺 造り			
	平屋 建ての	1 階 ~	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有 ( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

(4) 利用者の概要 (11月10日現在)

利用者人数	17 名	男性	3 名	女性	14 名
要介護1	7 名	要介護2	6 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82 歳	最低	74 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	嘉麻赤十字病院、松岡病院、有吉歯科、かわくぼクリニック
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは緑豊かな大法白馬山の麓にあり、田園風景が広がる静かな環境に立地している。敷地内には芝生が敷き詰められた広い庭園があり、散歩や庭での茶話会・食事など、屋外での活動が容易に実現できる。ホーム内は総桧張りで、廊下には採光を得るための天窗(トッライト)が幾つか設けられ、明るさが確保されている。また、併設のデイサービスと合同で多彩な行事が企画され、地域住民(ボランティア)との連携が築かれつつある。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>改善への取り組みの矢先、職員の離職・異動があり、具体的な改善に取り組めていない。職員の退職等については事業所の努力だけでは解決出来ない問題もあるが、改善作業については残った職員で改善計画を立案し、取り掛かれるところより順次改善していく事を期待する。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価についてはスタッフで話し合い、管理者が取りまとめを行っている。その結果、自己評価で改善課題が十数項目挙げられている。今回の外部評価での指摘事項以外でも、自己評価により継続的改善に繋がるよう期待する。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は10月21日に開催されたものが初回であり、今後運営推進会議を重ねていくことで、ホームのサービス向上に繋がるような話し合いが行われることを期待する。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</p> <p>家族の意見等については、意見箱あるいは家族面会時に聴取している。利用者の暮らしぶりや健康状態については、家族面会時や郵送にて知らせようとしている。また、ホームから月1回発行される新聞等でもホームの運営状況や利用者の暮らしぶりが写真を交えて紹介されている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>獅子舞(秋祭り)や太鼓演奏など、ボランティアや近隣住民の来訪は度々あり、事業所内における地域との交流は図られつつあるが、利用者が地域行事等へ参加することは少ない。利用者が地域行事等に参加する機会を増やし、さらに地域住民との関わりが持てるよう積極的に支援されることを期待する。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念に「地域にも貢献していく」といった文言が追加され、ホームが地域でどのような役割を果たせるか模索しながら地域交流を進めている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念が各職員の名札の裏に記載され、いつでも確認できるように工夫がなされている。また、管理者の地域への働きかけもあり、近隣の住民が足を運んでくれるようになっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	獅子舞(秋祭り)や太鼓演奏などボランティアの来訪、近隣住民の来訪は度々あり、事業所内における地域との交流は図られつつあるが、利用者が地域行事等へ参加することは少ない。		利用者が地域行事等に参加する機会を増やし、さらに地域住民との関わりが持てるよう積極的に支援されることを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価結果、自己評価等についてはスタッフで話し合い、管理者が取りまとめを行っている。改善作業の矢先、職員の異動が続いたため具体的な改善に取り組めていない。		職員の退職等については事業所の努力だけでは解決出来ない問題もあるが、改善作業については残った職員で改善計画を立案し、取り掛かれるところより順次改善していく事を期待する。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成20年10月21日に第1回の運営推進会議が開催されたばかりであり、サービス向上に繋がるまでの話し合いは出来ていない。		運営推進会議の中で「改善課題」の進捗状況を確認するなど会議を重ねながら、ホームのサービス向上に繋がるような話し合いが行われることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	制度など不明な点については市町村に問合せをしており、市町村主催の研修会にも参加している。また、市町村、地域の医療機関、高齢者ケア施設で結成された「ケア木」といった勉強会があり、積極的に参加している。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるように支援している	権利擁護等についてはミーティングで話し合われていることが議事録より確認出来る。また、職員からのヒアリングにより成年後見人制度について理解していることが確認出来る。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態については、家族面会時や郵送にて知らせている。また、ホームから月1回発行される新聞等で新入職者の紹介が行われている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を常設しているが、入っていることは少なく、むしろ面会時等で意見を聞く場合が多いのが現状である。その場合においても速やかに対応している。		家族からの意見を積極的に取り入れていこうというホームの姿勢は伝わってくる。しかし、直接スタッフに言えない家族もいることを想定し、アンケート等でより多くの家族の意見を拾い上げるなどの工夫を期待する。
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職、異動の際は十分に引き継ぎを行い、利用者・家族等への報告は面会時やホームの便り等で行っている。また、異動した後も利用者への声掛けをするなど関わりを持つようになっている。新規職員は業務より利用者に慣れてもらうことを優先して教育を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用にあたって性別や年齢を理由に排除することはない。職員が自己実現を果たせるよう、研修会の参加や資格取得などが奨励されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部研修に参加し、内部では伝達講習を実施している。また、ミーティングで話し合われていることが記録より確認出来る。		
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は行われているが、必ずしも職員の資格、経験に応じた育成が行われているわけではない。外部研修の伝達はその都度実施されている。		新入職者の教育体制に限らず、資格・経験等に応じた教育・研修体制の構築を期待する。
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の事業所等と「ケア木」といったネットワークを作り、3ヶ月に1回の頻度で、勉強会・意見交換を主体に実施している。また、管理者は個人的に同業者を訪問し、情報を収集することでサービスの質の向上に繋がるように努めている。		
<b>・安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者がホームへ入所する前に数回来所していただき、ホームの環境や職員に馴染んでいただくような工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	掃除、調理の下ごしらえの仕方、洗濯物の干し方等利用者が培ってきたことを引き出し、出来るだけ支え合う関係を築くようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1.一人ひとりの把握</b>					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>アセスメントシートあるいはフェースシート等に家族構成、生活歴等の記載が少ないため、利用者の思いや暮らし方の希望など把握が困難と思われる。</p>		<p>利用者が「その人らしく暮らしていく」ことを支援していくためには、利用者の生活歴を把握することは重要である。また、記録に留めることがなければ職員が交代した際には再度情報収集をしなくてはならなくなる。今後、生活歴など詳細に記載されることを期待したい。</p>
<b>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画作成に向け郵送等で意見や希望を聞くように努めているが、家族の返事が無い場合が多い。ケアチェック表に家族の訴えや希望の記載欄があるが記載が確認出来ない。</p>		<p>家族の訴えや希望についての記載欄は重要な項目であり、是非とも活用されることを期待する。</p>
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>月に1回のモニタリングは実施されているが、その結果が総合評価として上がっていないケースがある。</p>		<p>総合評価のもとで現状に即したプランの見直しを図るため、今後、検討を確実にを行い、記載漏れがないように確認の徹底が望まれる。</p>
<b>3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
20	41	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>希望・要望に応じ自宅への外泊・外出を促したり、利用者の馴染みの場所に出かけるなど、柔軟な対応をしている。</p>		
<b>4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
21	45	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人・家族の希望に沿って訪問診療やかかりつけ医への受診等の支援がなされている。受診の際はスタッフが同行し、かかりつけ医と連携をとっている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者が重度化した場合や終末期にある場合、利用者本人、家族の希望により「看取り」は行っていく方針である。現在、看取りの指針、同意書の扱い方等について検討の段階にある。		「看取り」を行うためには、事業所で出来る状態に有るか無いかを検証した上でマニュアル等で方針、手順を共有し、かかりつけ医と連携していくことが求められる。事業所代表者及び職員で慎重に話し合いをしながら「看取り」について取り組んでもらいたい。
<p><b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録等の個人情報は事務所内にて管理され、便りに掲載される写真については家族より同意が得られている。排泄誘導等については、さり気ない介助を心掛け、利用者の自尊心を傷つけないよう配慮している。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日をどのように過ごしたいか、利用者の希望や思いを大切にしながら過ごしてもらうようにしており、行事、レクリエーションなどの参加は無理強いはしていない。		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューは利用者一人ひとりの希望や好みを聞き作成している。食事は利用者と職員が同じテーブルにつき食事をし、また、利用者の能力に合わせて食事の準備や後片付けを手伝ってもらっている。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴回数は原則週3回であるが、希望により入浴回数は増やせる。入浴時間は午前～夕刻までで、出来るだけ希望に沿うように対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴の記載は少ないものの、洗濯物たたみ、食事の準備・片付け、趣味活動(毬づくり)など、一人ひとりの能力や培ってきたものを大事にしながら支援している。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	敷地内には芝生を敷き詰めた広い庭園があり、時には外で茶話会や食事をしたりしている。また、日常的に散歩や買い物に出かけたり、四季折々に花見に出かけたりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	敷地を一步出ると交通量の多い幹線道路がある。玄関に鍵をかけることの弊害は理解しているが、職員の手が足りない時は危険回避のため、家族の同意を得た上で止む無く鍵をかけている。その場合においても、利用者が玄関に行かれた場合はできるだけ付き添うように支援している。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急連絡網、マニュアル等は整備され、併設のデイサービスとの協力体制も出来ている。消防訓練は年2回実施されていることが記録より確認出来る。今後は夜間を想定した消防訓練が追加される予定である。		夜間帯は特に職員が少ないため、職員のみによる入居者の避難誘導には限界がある。運営推進会議等で区長に協力を呼びかけたり、日頃より地域住民に事業所の理解を求め、災害時の協力体制を築いていくことを期待する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの能力に応じた食形態で食事が提供され、栄養バランス等も考慮されている。また、日々の食事・水分摂取量も記録されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームは総桧張りで、廊下には採光を得るための天窗(トップライト)が数ヶ所設けられているため、ホーム内は明るく、また、適度に季節感がかもし出され居心地良く過ごせるよう工夫されている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で利用していた家具や写真など、利用者の馴染みのある物品が居室に持ち込まれ、利用者本人が居心地よく暮らせるように支援している。		